

答弁書第四号

内閣参質一〇一第四号

昭和五十九年二月七日

内閣総理大臣 中曾根 康弘

参議院議長 木村 睦 男 殿

参議院議員秦豊君提出わが国の核物質保有量に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

参議院議員秦豊君提出わが国の核物質保有量に関する質問に対する答弁書

一について

昭和五十九年一月現在利用し得る最新のデータによれば、我が国の核物質保有量は、次のとおりである。

| 核物質の種類 | 保 有 量          |
|--------|----------------|
| 天然ウラン  | 七五〇、九三七キログラム   |
| 劣化ウラン  | 二四二、一一三キログラム   |
| 濃縮ウラン  | 五、一九九、一〇三キログラム |
| ウラン二三三 | 四一グラム          |
| プルトニウム | 一一、一七一キログラム    |
| トリウム   | 三、五八九キログラム     |

(昭和五十八年十二月末現在)

(原子炉燃料(新燃料、炉内装荷中の燃料及び使用済燃料)中の核物質の量を含む。)

## 二について

昭和五十六年度以降における我が国のプルトニウム年間生成量は、次のとおりである。

| 年 度     | 生 成 量      |
|---------|------------|
| 昭和五十六年度 | 三、三九三キログラム |
| 昭和五十七年度 | 三、六九一キログラム |

## 三について

プルトニウム生成量は、発電電力量、使用済燃料の燃焼度、発電に使用される原子炉の炉型等の相違により変動するため、昭和五十九年度以降の我が国のプルトニウム生成量の予測を示すことは困難である。